

## (単元) 特別講義 (主権者教育)

## (本時のねらい)

町の選挙管理委員会から特別講師を招き、選挙の仕組みについて具体的に学ぶ。不在者投票や期日前投票などの具体的な運営や、遠隔地に住む高齢者のための移動投票所に関する取組についても学ぶ。さらに、近年の有権者の投票率を各年代でグラフ化し、低投票率が引き起こす課題とその対策について知り、現代の若者たちの政治に関する関心の低さに対して課題意識を持たせる。そして、選挙を身近なものとして感じさせ、自分の住む地域や日本全体の将来を真剣に考える機会にする。18歳から選挙権が与えられるようになり、生徒の中には1年後には選挙権を有する者もいる中で、主権者としての権利と責任を持つようになることを、より具体的に意識させて学習することをねらいとする。また後半では、会場に設置した模擬投票所を活用し、実際に投票する時の一連の流れについて講師から具体的な説明を受けるとともに、実際に投票を体験することで選挙に対する関心を深める。

## (ICT活用方法)

- ・日本の選挙制度の仕組みについて、スライドを用いた講義で学ばせる。
- ・有権者の投票率などのデータから分かることを学ばせる。
- ・投票所の写真を見ながら、一連の流れについて細かい指導を受けさせる。
- ・不在者投票や期日前投票についての制度について具体的に学ばせる。

## (本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法	備考
導入 5分	本時の目標を知る			
展開 40分	日本の選挙の仕組みについて知る。  期日前投票の制度などについて学ぶ。  投票する時に大切なことについて話し合う。	自分が投票するときに大切なことは何かを考えさせる。	特別講師の方が選挙制度の仕組みについてスライドを用いて講義する。  地元での期日前投票所の開設場所や利用の仕方を具体的に説明する。  投票所に入ってから投票するまでの流れについて説明する。	周囲の生徒と活発な意見交換ができる雰囲気を作る。

	投票所での一連の流れを知る。		写真等を活用し、実際の動きをイメージできるように説明する。	
	実際に模擬投票を行う。	模擬投票所で投票するまでの流れを体験する。	投票所のスライドを提示しておき、投票までの流れの中で、今どの段階なのか、随時確認できるようにしておく。	
	主権者になった場合に大切な事柄について考えをまとめる。	自分の意見を考えさせ、まとめさせる。		1年後に選挙権が与えられた時を意識して考えさせる。
まとめ 5分	本時のまとめをする	選挙制度についての考えをまとめさせる。		

(授業の様子)



(日本の選挙制度を学)



(投票所について知る)



(実際に投票を体験)

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

教科書で学んだ選挙制度を，特別講師から具体的な経験とスライドを活用して話を聞くことができ，生徒たちは興味関心を持って授業に取り組むことができた。HR単位の授業ではなく，学年全体を通しての授業となったので，プロジェクターに教材を映し出し，手元の資料と見比べながら進める授業は大変効果的であった。文字や写真だけでなく，動画やアニメーションを活用して説明することは，現代の高校生たちの興味や関心を惹きつける重要な手法であり，学習理解を深める効果的な手段であると感じた。

一方で，生徒の意見発表や感想発表の場としてプロジェクターを活用する場面をつくるのが課題として挙げられる。自分の考えたこと，感じたことをまとめ，プロジェクターを通して発表する場面設定ができれば，もっと理解が深まるのではないかと期待される。